

パートナーシップ構築シンポジウム

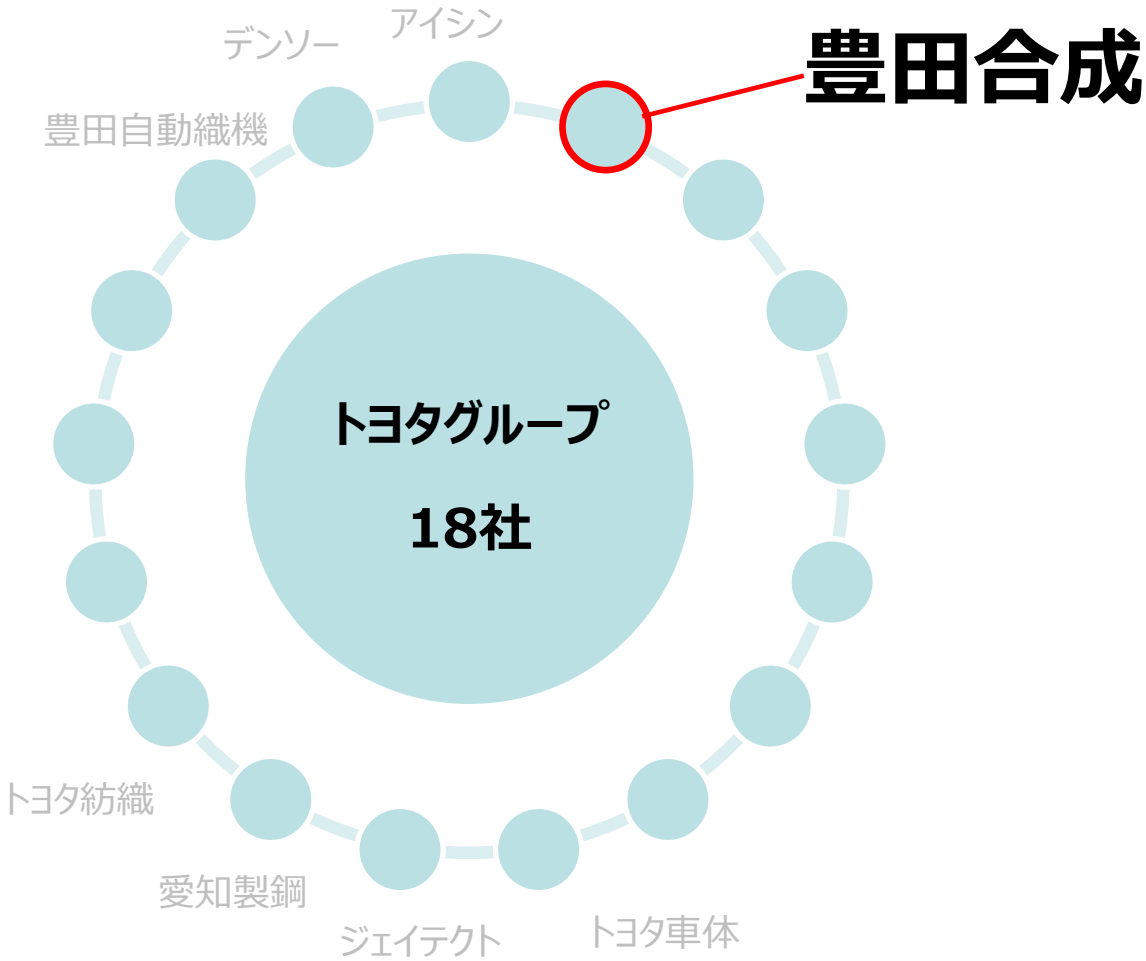
仕入先様と共に取り組む カーボンニュートラル活動

～サプライチェーン全体への浸透に向けて～

2025年3月13日

豊田合成株式会社
調達本部 本部長
渡辺 修自

トヨタグループの一員として合成ゴム・樹脂に強み



社名の由来





ウェザーストリップ製品 ※ドアなどに装着し、雨・音から室内を守るゴム製品

11%(1,195億円)

機能部品 17%(1,768億円)

※「走る・止まる・曲がる」に繋がる車の基本となる部品



ブレーキホース 給油口のキャップ

内外装部品

35%(3,783億円)

※車の内装部品や魅力的な外観につながる部品



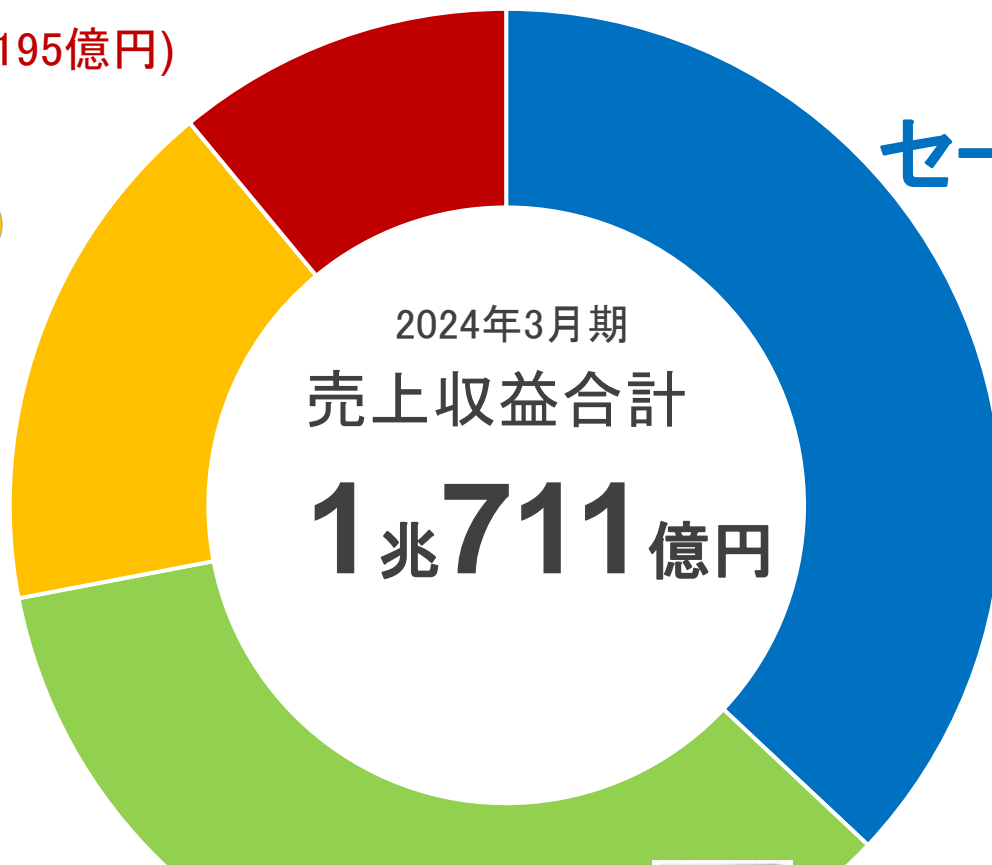
車内の構成部品



グリル



空気清浄機



2024年3月期
売上収益合計

1兆711 億円

セーフティシステム製品

37%(3,964億円)

※乗員や歩行者を保護するエアバッグ



エアバッグ

仕入先様とのより良い関係が総合力を高める = 経営理念に込めている 豊田合成の想い

経営理念「限りない創造 社会への奉仕」

1

私たちは、良き企業市民として、
各国・地域に根ざした事業活動および
社会貢献活動により、
経済・社会の発展に貢献します。

社会への
貢献

2

私たちは、法令の遵守や
企業倫理の徹底に向けた体制を構築し、
誠実な事業活動を行います。

適正な
事業活動

3

私たちは、仕入先様とのオープンで
対等な関係を基本に、
互いに企業体質の強化・経営の革新に
努め、グループの総合力を高めます。

持続的な
成長

4

私たちは、変化を先取りした研究開発と
ものづくり技術により、お客様に
満足いただける品質・価格で、
タイムリーに商品・サービスを提供します。

お客様の
満足

5

私たちは、環境に配慮した製品の提供と
工程づくりに努め、あらゆる企業活動を通じ、
社会と連携して環境・資源を保全し、
豊かな地球を未来に残すことに貢献します。

地球環境・
資源の保全

6

私たちは、労使相互信頼・責任を基本に、
一人ひとりの個性を尊重するとともに、
チームワークによる総合力を高め、
活力と働きがいのある企業風土を実現します。

人間性の
尊重

仕入先様は相互信頼関係に基づくパートナー 何でも言っていただけ関係性を深め、宣言の実効性を高める

I サプライチェーン全体の付加価値向上を目指します

- ・定期的な連絡会を開催し、安全・C N等の情報提供を継続実施
規模・系列を超えて仕入先様と連携し、共存共栄を目指しています



II 振興基準の遵守を通じて取引適正化を目指します

- 【労務費】 「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」に基づき、当社から仕入先様へ声掛けし、コスト増に対する適正な転嫁を実施しています
- 【型管理】 顧客からの連絡を基に仕入先様と廃棄を促進するとともに、独自の取り組みとして流動の無い品番データに紐づく型を特定し、廃棄を顧客へ提案し促進を図っています

目指す姿

高分子の可能性を追求し、より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社

提供価値

セーフティ
システムを軸とした

安心・安全

内外装部品を
土台とした

快適

高分子材料の
新規事業化による

脱炭素

基本方針

- 社会的価値と経済的価値を両立させる分野に注力
(事業ポートフォリオの組み換え)

重点施策

- 重点事業・地域・顧客での成長に向けた構造改革
(セーフティシステム・内外装・材料事業、北米・インド・中国の現地カーメーカーへの拡販)
- グローバル成長を加速する戦略的アライアンス、開発・知財の戦略的強化
- 人と組織が有機的に結合した高分子型組織による経営革新

2030年度経営目標

売上収益
1兆2,000億円

営業利益
1,000億円

営業利益率
8%

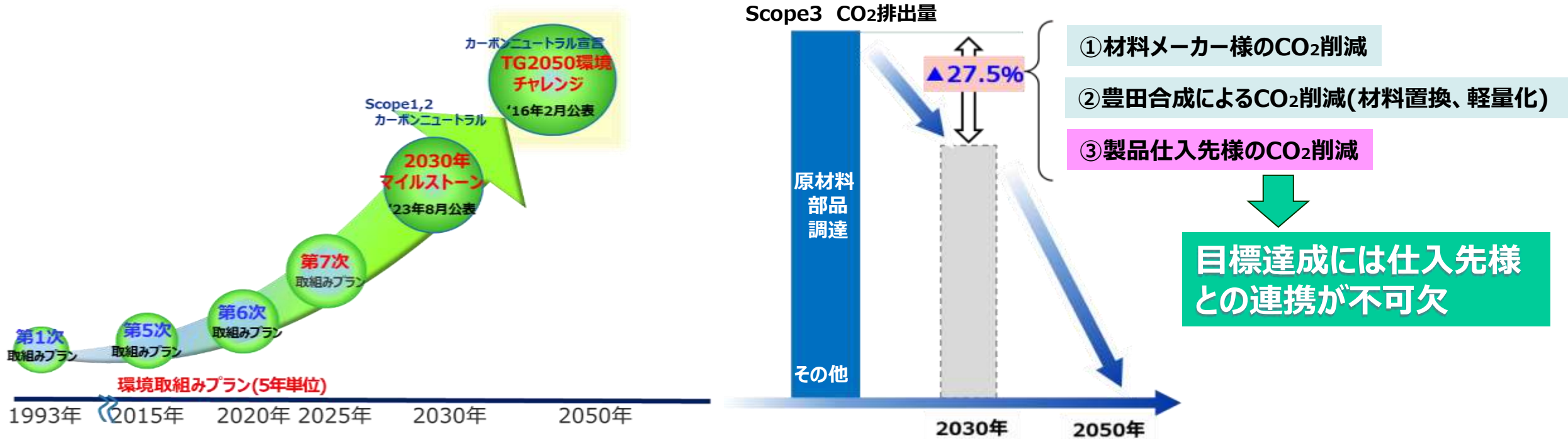
ROE
10%

- TG2050環境チャレンジを宣言（'16年2月） *5年ごとに取組みプランの策定
- カーボンニュートラル達成時期(スコープ1、2)を2030年に前倒し（'23年8月）

※TG : Toyota Gosei

<目標値とシナリオ>

CO₂排出量(Scope 3)
 2030年度目標 : '19年度比 27.5%低減
 TG2050環境チャレンジ : カーボンニュートラル

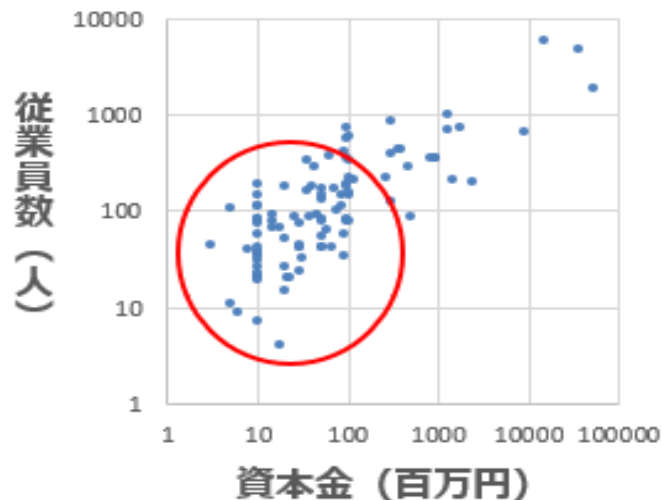


仕入先様とのカーボンニュートラル※活動促進のために方針を策定し活動

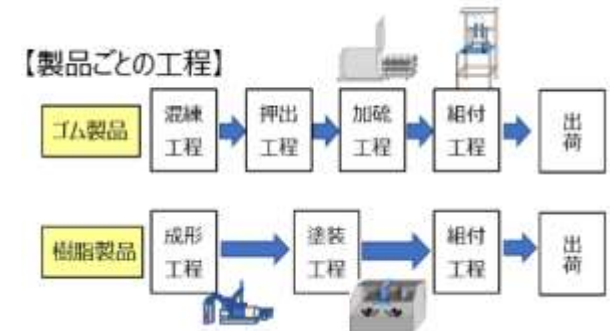
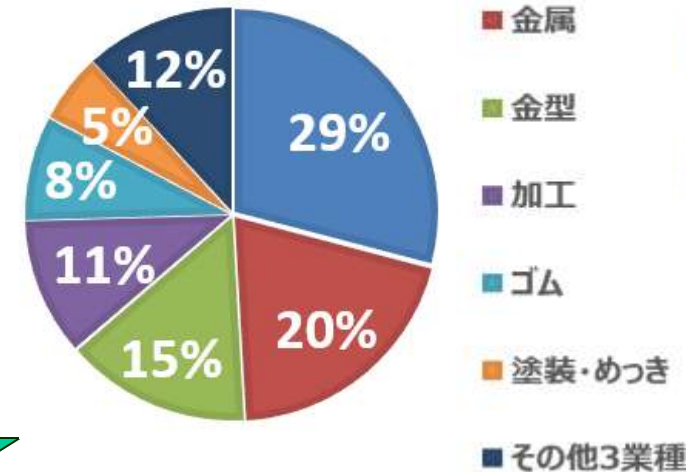
(※本ページ以降CNと記載)

活動対象 124社 (弊社購入額の80%以上) と共に活動推進のため
➡ **仕入先様の特徴を踏まえた活動方針が必要**

仕入先様の会社規模



業種ごとの分布 (社数)



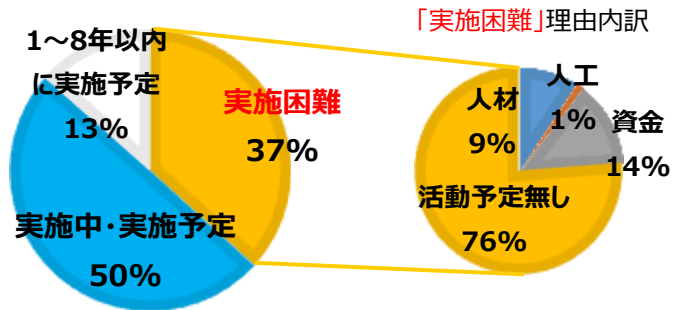
様々な業種が存在
➡異なる困りごとが
想定される

活動方針：徹底的に仕入先の皆さんに寄り添う

〔 仕入先様の力だけでは達成困難 / 業種に合わせた対応必要
→ 各社に合わせきめ細やかにサポート 〕

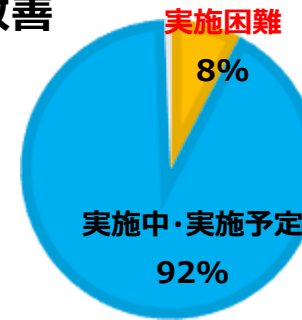
取組開始時の仕入先様活動状況

設備の改良・更新



- ・CNの必要性に関する意識不足
- ・生産に追われ、対応できず
- ・設備更新の資金不足

日常改善



- ・改善している認識だが効果が不十分
- ・会社全体の活動でない



会社全体にCN活動を浸透させる必要あり

➡ 低減目標の共有・以下ステップにより活動を開始
仕入先・豊田合成共に全体に活動を行きわたらせる仕組み

STEP1 理解浸透活動

➡ 経営陣・実務メンバー 双方への働きかけ（30回以上の説明会）

STEP2 CO₂排出量 実態把握

➡ 自社の排出量を把握してもらう（生産・物流とも）

STEP3 CO₂排出量 低減活動

➡ 次ページ

まずは活動を定着させるために単年度3%低減を目標に活動開始
仕入先様と一体となってCN活動理解浸透を図る
→ 仕入先様を一番知っている担当バイヤーが共に学び、進める

➤ 体制：共に寄り添い、一緒に学び・共に考える体制

- 仕入先様 : CN活動責任者 各社1名
- 豊田合成窓口 : 各仕入先担当バイヤー (総勢30名以上)



➤ ツール：CO₂低減テーマ立案・実績管理サポート

- 「省エネ39事例」の提供
- テーマ立案・実績管理 (月次) フォーマット
→ 毎月担当窓口へ提出・双方で状況確認

☞ 単年度テーマ立案・実績管理シート

☞ 各社の最新状況：部内掲示



課題：① ツールがあっても、何から手を付ければ良いかわからない

➔ P.10事例

② CO₂低減効果が測定できない

➔ P.10事例

③ 社内の理解が得られない

➔ P.12

➤ 学びの場の提供

課題①対応

◆ 省エネ道場での勉強会



◆ 仕入先様同士の好事例の共有

調達連絡会・説明会にて

- ・エア漏れの金額換算：現場から声が上がるようになった
- ・お勧め省エネアイテム
- ・社内の推進体制・判断のタイミング など

➤ エネルギーの見える化

課題②対応

- ◆ 各種測定器の貸し出し・実測支援
➔ エネルギーの見える化



気づき：きめ細やかなサポートが必要、仕入先様同士の研鑽の場が必要

- ➔ ・業種ごとに異なる困りごとの解決
- ・更なる気づきと低減テーマ不足の解消
- ・最新情報の提供
が必要

➔ **CN活動促進会の実施**
(次ページ)

➤ 「30年度に向けたCN活動促進会」の開催（年2回）

◆開催の目的

- 目標達成へサプライチェーン一体となって取り組む機運醸成
- 講演会・展示会：そのタイミングに適した情報提供
- 小グループ討議：ディスカッションによる情報共有・困りごと解決



気づき：
・単年度テーマ策定だけでは30年度目標達成が可能かわからない
・先々の設備・再エネ導入予定が反映できない
・組織的に活動を進めたいが、体制がない

各社単位の中長期計画＝ロードマップの策定が必須と判断

◆中長期ロードマップ策定に対する想い
中長期的な目線で経営者のリーダーシップのもと、CN活動の進め方を考えていただく
→仕入先様の目標達成を後押ししたい

◆以下のステップで丁寧に推進

段階的に精度アップ

I ロードマップ策定準備 ('23/9 活動促進会)

対象：経営者
内容：「脱炭素経営」に向け「あるべき姿」を考える



II 帳票提供～策定トライ (3ヶ月)

ツール：独自エクセル帳票 (→次ページ)
コンセプト：まず可能な範囲で

III 内容 困り事フォロー ('24/3 活動促進会)

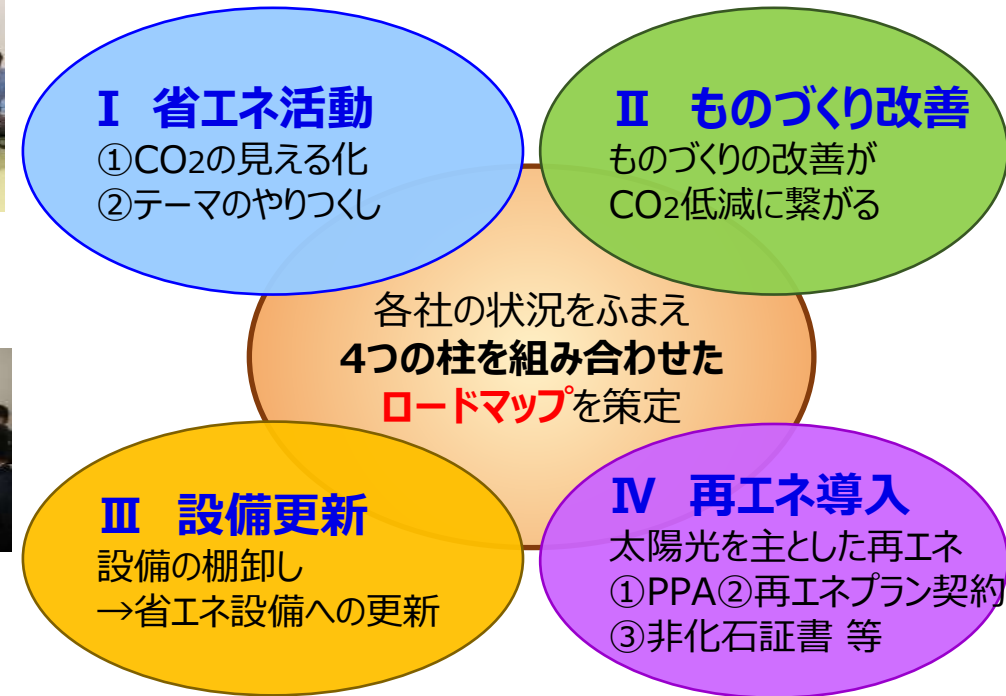
方法：小グループディスカッション
内容：内容共有、困りごと相談



IV ロードマップ精度アップ

年2回の見直し & 随時質問対応実施

👉ロードマップ上の「4つの柱」



◆ロードマップ帳票のこだわり

- ・計画通り達成して欲しい : テーマ内容・達成状況を都度確認 → ⑤テーマ表に入力 → ①グラフに反映
- ・推進体制を作って欲しい : 会社全体の推進体制を経営陣含めて考える → ②CN推進体制
- ・自社の価値向上を考えて欲しい : 将来のビジョンを記入 → ③低減活動の指針

①30年度に向けたグラフ



②CN推進体制



③低減活動の指針

【低減活動 方針(短期的方向性)】
 1. CO2削減率の向上 (2030年度まで) 19年度実績: 100% 達成
 2. 高度成長を遂げるための投資
 3. 環境にやさしい製品・サービスの提供
 4. 環境負荷低減と社会貢献

所属	生産部
所属	生産部
所属	生産部
所属	生産部

⑤4つの柱ごとにテーマ・効果計算
 →①グラフで達成状況を
 一目で確認可能

④活動内容記載

活動内容	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
省エネ活動(人の取組)
省エネ活動(モノづくり)
設備更新(高効率化)
再生エネルギー

⑤柱別テーマ表

柱別	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
省エネ活動
省エネ活動
省エネ活動
省エネ活動

4つの柱ごとに
テーマ策定

仕入先の皆様からの生の声

・30年度までの具体的な進め方を整理できていなかったためロードマップ策定が役に立った

・独自にロードマップを策定していたが、豊田合成のロードマップの方が管理しやすいため、変更した

・会社全体で推進組織を立ち上げるきっかけとなった など

活動参加会社 ロードマップ策定完了

→ 内容の精度アップ・達成方策の実行サポートに向け、日々活動中

◆ 低減目標 3%/年は順調に達成予定

◆ 仕入先様の意識は活動4年で大きく変化

☞ 仕入先の皆様の自主的活動の例

- 協和会（仕入先組織）「カーボンニュートラル委員会」発足（2022年度～）
自主的に活動開始を決定、CN活動全体を牽引
- 仕入先様独自での外部表彰受賞、講演会スピーチ
- SBT認証取得の輪が広がる

☞ 仕入先様での設備導入事例

省エネコンプレッサ

排熱ダクト



☞ 測定方法を一緒に確認



☞ 仕入先様 外部表彰受賞



☞ 進め方を一緒に議論



活動状況に合わせて仕入先様の困りごとを一緒に解決してまいります

**これからも仕入先の皆様とのオープンで対等な関係を基に
双方の持続的な成長を目指してまいります**

**また、サプライチェーン全体での脱炭素化に向け
仕入先様の困りごとを解決しながら、一丸となって
活動を継続してまいります**



**仕入先様とのあらゆる活動を通じコミュニケーションを深め、
「パートナーシップ構築宣言」の実効性をより一層高めてまいります**